

あしたの風

第 93 号

令和 3 年 9 月 1 日 発行
編集発行 秋田市教育委員会
生涯学習室

—— 秋 田 市 の 生 涯 学 習 ——



太平山
～河辺山歩会～

☆☆土崎地区☆☆

横山金足線沿いにアジサイを植え続けて

生涯学習奨励員 加賀谷 みち子

「アジサイクラブ」として有志で立ち上げてから十六年、最初はアジサイで人と町をつなげようと、さし木を育てていて、その苗を横金線に植えてからは十五年目になります。

私は途中からの参加、最初は本当に手探りで大変だったと話していました。

そんな苦労もあつての今かなと思っています。

冬期間以外は、毎週月曜日の作業の日、作業する人達のことを、事故がない様にと目立つオレンジ色のジャンパーを着て、オレンジレディ・ミスターオレンジと呼び活動しています。

雪が消えたら作業が始まり雑草との戦い、丈が高くなると手作業では難しく、最近ではミスターオレンジさん達に機械で刈ってもらっています。

今回はちょうど花の咲く頃に市の方で草刈りをしてくれたのでとっても助かりました。

花が終わったら、花摘み、剪定、紐かけなど、作業は多く、それをする人達がだんだん少なくなつてきて大変ですが、また春には綺麗に花をつけてくれるだろうと頑張っています。

今は將軍野青山町から飯島新町の横金線を挟んで約一キロの間に四百二十本のアジサイが植えられています。知り合いの人達や近所の町内の人達からのお手伝いもあつて、新しいアジサイを植え続けています。

アジサイの綺麗に咲く時期になったら、横金線のアジサイも見てもらえたら嬉しく思います。



一キロの間に四百二十本のアジサイ



アジサイで人と町をつなげよう

☆☆東部地区☆☆

私と田植え

生涯学習奨励員 鎌田 重憲

私が子供達と田植えを始めたのは先生の一言が始まりでした。

―鎌さん、田植えやってみないな―

そして、学校の花だんが「田んぼ」のスタートでした。

数十年前は学校の役員でしたが、先生方とは何でもやってみました。花だんの下にビニールを敷き、その上に土を盛るといふアイデアもありました。今思えば楽しい活動のはじまり、花だんの田植えも収穫までは大変でしたが、何年間か続けてみました。

そのうち、子供達と田植え、稲刈りを本当の田んぼでやってみたいと考え、改めて計画し、道具、時期、対象は何年生がいいか、など先生達と話し合い、一回目の田植えが始まりました。全員裸足で田んぼに初めて入った時の子供達の声は今も忘れられません。

本当は、「一回で終わりかな」と思っていました。ところが、次の年に、「鎌田さん」と先生から電話が。「田植え何日にやりますか」

「え!?」と一言。

その時は私の田んぼは当初の十倍にも増えており、今後は大丈夫かなと不安に思いました。

一生に一度しか出来ない「田植え・稲刈り」続けてみよう、何か勉強になるだろう、と思いつながら、数十年続けています。

長くやっていると毎年のお祭りのように思われ、収穫のあとのおにぎりパーティーが楽しみになり



田んぼは当初の十倍にも増えた。



先生の一言が活動のはじまり

ます。出来る間は頑張ります。
「今日は田植えだぞ！」
機械の時代だからこそ、子供達との手植え・手刈りを伝えていけることを大事にしていきたいと思っています。

☆☆ 北部地区 ☆☆

作るよろこび学びたのしさ

生涯学習奨励員 中川 久美子

私たちの町内では、公民館活動で健康づくり、親睦・融和を目的とした地域サロン「手芸の会」が毎週水曜日に行われています。私が参加するようになってもう八年目となりました。

参加者それぞれがその都度講師役になったり、受講者になったりで、みんなの知恵と工夫で好きな作品を作っています。今はもう手を通すこともなくなった着物のリメイクでチュニックやブラウスに挑戦しましたが、上手にきれいに仕上げるのは洋裁の経験がない私にとっては、とても難しいものでした。

でも、参加者の中に洋裁や和裁の得意な方もおり手助けをしてくれます。とても面倒な過程の積み重ねが、手作りの温かさへとつながり、やがて楽しくできるようになりました。

また一つ、また一つ、と次々に作りたくなってしまいます。

これまでに着物を利用した吊るし飾り・巾着袋・ブローチ・布草履・縫いぐるみやバックのほか、今は感染症予防のためのマスクなどを手がけ、自分達の好きなものを夢中になって作る喜びを感じています。

また、縫物が続いた後には、気分転換でクラフトテープやPPバンド（荷造り用のプラスチックバンド）手芸に挑戦です。

折ったり編んだりし、お出かけバックや買い物籠づくりも楽しいものです。昼は弁当持参なので、おのずと料理講習会に脱線することもしばしばです。

また、見聞を広める移動学習としてローカル線での小旅行も楽しい語らいの場でもありましたが、感



みんなの知恵と工夫で好きな作品を作る



手芸教室で身につけた技術が役立っている

染予防のため休止としています。
これまで下新城交流センターでの手芸教室で学び、基本技術を身に着けたことが今役立っていると思っております。
小さな会ですが、同じ地域に住んでいる皆さんと、こうして学びながら語らいができるのも、皆様の暖かいお力添えのお陰であると感じております。コロナ禍が早く終息し、大きな笑い声に満ちた学習の場に戻れることを願いながら日々を過ごしております。

☆ 河辺地区 ☆

登山にチャレンジ

河辺山歩会 二木 満

秋田市民であれば「太平山」を知らない人はいないと思います。その太平山への登山口は数カ所あり、メインルートは旭又です。

残念なことに岩見三内にある丸舞ルートはあまり利用されていません。そこで、丸舞ルートを廃道化させないようにと、平成元年に太平山を主とした登山を目的に登山グループ『河辺山歩会』を立ち上げました。

発足時は七名でしたが、ピーク時には五十六名もの会員が所属しておりました。しかし、年々、足腰が弱くなって一人、二人と脱会し、現在三十三年目の会員数は二十五名となりました。

活動は、六月の太平山山開き登山（当然丸舞コースからの登頂）の他に、五月から十一月までの期間で、月一回程度の県内外の山に出かけております。（昨年・今年と県内のみ）

また、県主催の「山の環境整備県民協働事業」に積極的に参加しております。（避難小屋の防腐剤塗装・標柱設置等）

春は新緑、夏は高山植物、秋は紅葉と同じ山でも季節やルートで景色が変わり、普段思い悩んでいることなど忘れ、毎回新鮮な気持ちで山と向き合うことができます。

私は、中学校の太平山全校登山の時、バテバテで級友に引っ張ってもらい初登頂した苦い思い出があります。そんな中、たまたま就職した会社に登山サークルがあり、中学校時代の不甲斐無さを

払拭したく入部し、現在に至っております。当会は、今ほとんどが七十歳以上の高齢者ですので、その時の体調の悪い人のペースで行動しております。

「私も登山にチャレンジしてみたい」という方は、ご連絡お待ちしております。

携帯〇九〇―二七九一―六六一六



同じ山でも季節やルートで景色が変わる



毎回新鮮な気持ちで山と向き合う

古代秋田の象徴「秋田城」

秋田城跡歴史資料館

館長 佐藤 鋼 一

秋田城は、奈良時代に当時の律令国家が、出羽国における行政および軍事上の拠点として建置した「城（じょう）柵（さく）」と呼ばれる施設です。秋田の古代史は、秋田城とともに大きく動き出したといえるでしょう。

ちなみに、秋田のお城ということで、久保田城と混同されたりしますが、久保田城とは時代も種類も異なりますのでお間違えのないよう。

国指定史跡としての「秋田城跡（あと）」は、高清水丘陵を中心に総面積約九十万㎡にもおよぶ広大なエリアとなっており、本市では一九七二年から継続的に発掘調査を行ってきました。

そして、長年の調査の成果を整理・分類し、公開展示する施設として、また今後も続く発掘調査の拠点施設として二〇一六年四月に秋田城跡歴史資料館がオープンしました。

資料館では、文字が判然としない出土文書（もんじょ）を赤外線カメラで読み取る体験コーナーを備えるほか、兵士が身に付ける甲（よろい）を発掘時の状況に復元した床下展示など、秋田城の全貌とその歴史的背景を興味を持って学ぶことができるよう、展示方法にも工夫を凝らしています。

また、史跡公園では、外郭東門や古代水洗トイレなど重要な遺構の復元整備を進めてきました。こちらは一見の価値があります。

当館では、年二回の企画展や各種イベントなど



内容充実の常設展示（総展示数約400点）

を随時開催していますので、ぜひ本市ホームページをチェックしてみてください。
コロナ禍の収束がなかなか見通せない状況ではありますが、こうしたときだからこそ、秋田城の歴史を通じて郷土秋田の古代史とじっくり向き合ってみるのも有意義ではないでしょうか。

【アクセス】

秋田駅西口からバスで約二十分。

「將軍野線」もしくは「寺内経由土崎線」で「秋田城跡歴史資料館前」下車



秋田城跡歴史資料館
HPをチェック！



奈良時代に水洗トイレがあったとは…

災害情報をメールで送信する
「防災ネットあきた」に
登録ください！

令和元年台風第十九号等での課題を踏まえ、災害対策基本法が一部改正され、五月二十日から避難情報の伝え方が変わりました（「避難勧告」と「避難指示（緊急）」が「避難指示」に一本化される等）。内閣府によると、七月から十月にかけては日本に接近・上陸する台風が多くなり、大雨、洪水、暴風、高波、高潮などをもたらします。

また、西日本を中心とした八月の大雨による被害は記憶に新しいですが、内閣府の発表によると、近年では短時間に狭い範囲で非常に激しく降る雨が頻発し、川の急激な増水が生じたり、道路や住宅の浸水、道路のアンダーパス等の地下空間の水没といった被害も発生している状況です。

災害発生の恐れがある場合は、事前の情報収集と迅速な避難が大事です。

「防災ネットあきた」にメールアドレスを登録すると、市内での大雨・竜巻・地震・津波などの災害情報や、避難指示などの情報が携帯電話やパソコンに配信されます。

登録は、次のコードまたは市ホームページからどうぞ。



防災ネットあきた

表彰者紹介

令和三年度 秋田県生涯学習奨励員協議会表彰

- 加藤 久行 (中央)
- 金子 真悟 (中央)
- 佐藤 富子 (中央)
- 石川 和夫 (西部)
- 乙供 美香 (南部)
- 畠山 育子 (南部)
- 佐々木 タエ子 (雄和)



令和三年度 市の記念日式典における表彰

- 根田 貞子 (中央)
- 小林 公 (中央)
- 中村 宏 (中央)
- 常盤 誠 (中央)
- 佐々木 孝 (中央)
- 伊藤 和子 (西部)
- 相原 律子 (西部)
- 佐々木政志 (西部)
- 塚田 治誠 (西部)
- 蛭田 聰 (東部)
- 乙供 美香 (南部)
- 小田原里子 (南部)
- 塚田 朋子 (南部)
- 杉澤 裕子 (南部)
- 佐藤美智子 (南部)
- 石塚小枝子 (河辺)
- 安藤 實子 (河辺)
- 佐々木妙子 (河辺)
- 齊藤 和子 (雄和)
- 大友 昌子 (雄和)

左記の方々が表彰されました。
おめでとうございます。
今後ますますのご活躍をご祈念申し上げます。

※敬称略

編集後記にかえて

八年前、五十七年ぶり二度目の東京五輪開催が決定。その瞬間、IOC総会に参加していた我が国関係者らが飛び上がり、喜ぶ姿が目に見え、忘れられない。

当時は想像すらしていなかったが、新型コロナウイルス感染症拡大の中で、「平和の祭典」は無観客で行われた。

大会ビジョンは「多様性と調和」。平和を願う色々な思いの中の五輪開催であったように感じられた。

自身もスポーツが大好きで、オリンピック選手とは比較にならないが、汗を流し、苦しい練習に打ち込んだ経験がある。最盛期の頃が思い出され、胸が熱くなる。

今大会は、今まではあまり目にしなかった光景も沢山見られた気がする。苦しい戦いの最中、あるいは勝敗が決した時、選手達がお互いに敬意を表する様子は、「多様性と調和」のメッセージを力強く伝えたように思われる。

選手の皆様をはじめ、関係者の方々には心から感謝。有り難う、お疲れさまと拍手を送りたい。

私たちも、地域との一体感を大切に、自信と誇りを持って日々頑張っていきたいと思う。

(石塚)

編集委員 (秋田市生涯学習奨励員)

- 佐々木 孝 (中央)
- 佐藤 美枝子 (土崎)
- 佐々木 裕佳子 (西部)
- 坂田谷 義憲 (東部)
- 藤原 博子 (南部)
- 中泉 雪子 (北部)
- 石塚 小枝子 (河辺)
- 石井 榮美 (雄和)



『あしたの風』第九十三号

発行年月日

令和三年九月一日

編集発行

秋田市教育委員会生涯学習室

秋田市山王一丁目一番一号

電話 〇一八―八八八―五八一〇

この広報誌は

発行部数 一一〇〇部

配布方法 無料配布